



13:14 『荒らす忌まわしいもの』が、立てはならない所に立っているのを見たら——読者はよく理解せよ——ユダヤにいる人たちは山へ逃げなさい。

13:15 屋上にいる人は、家から何かを持ち出そうと、下に降りたり、中に入ったりしてはいけません。

13:16 畑にいる人は、上着を取りに戻ってはいけません。

13:17 それらの日、身重の女たちと乳飲み子を持つ女たちは哀れです。

13:18 このことが冬に起こらないように祈りなさい。

13:19 それらの日には、神が創造された被造世界のはじめから今に至るまでなかったような、また、今後も決してないような苦難が起こるからです。

13:20 もし主が、その日数を少なくしてくださらなかったら、一人も救われないうでしよう。しかし、主は、ご自分が選んだ人たちのために、その日数を少なくしてくださいました。

13:21 そのときに、だれかが、『ご覧なさい。ここにキリストがいる』とか、『あそこにいる』とか言っても、信じてはいけません。

13:22 偽キリストたち、偽預言者たちが現れて、できれば選ばれた者たちを惑わそうと、しるしや不思議を行います。

13:23 あなたがたは、気をつけていなさい。わたしは、すべてのことを前もって話しました。

13:24 しかしその日、これらの苦難に続いて、太陽は暗くなり、月は光を放たなくなり、13:25 星は天から落ち、天にあるもろもろの

力は揺り動かされます。

13:26 そのとき人々は、人の子が雲のうちに、偉大な力と栄光とともに来るのを見ます。

13:27 そのとき、人の子は御使いたちを遣わし、地の果てから天の果てまで、選ばれた者たちを四方から集めます。

イスラエル民族の苦難と、さらにこの世の終わりについてイエス様が語り、警戒を促しておられます。「荒らす忌まわしいもの」とは、後のローマ皇帝カリグラとも取れますし、ティトスとも取れます。恐らくイエス様はその後何度か起こるイスラエルの民族的苦難について言っておられるのだと思われまます。

それらの歴史上の苦難というのは、最終的に起こるこの世の終わりの決定的苦難を心に留めるためのものです。近代、現代に起こる大災害もまた同じで、それらはサタンの仕業であつたとしても、私たちはそこから終末の教訓を学ぶ必要があるのです。

一番肝心なことは、「にせキリスト」にまどわされないことです。「しるしや不思議」というような現象、すなわち奇跡や癒しなどというご利益的なものに心がとらわれていると、間違つてしまふことがあるということです。正しい信仰は正しい聖書理解によって守られます。

日頃から、聖書の全体を正しく学び、謙遜に教えられて、週末の備えを怠らないようにしましう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

